

せいの看護学会 News Letter

Contents ◆理事長挨拶 ◆第8回せいの看護学会学術集会を終えて ◆近藤先生講演
◆学会の様子と総会報告 ◆ニューズレター発行のお知らせ ◆お知らせ

◆理事長挨拶

せいの看護学会理事長 藤本栄子



本学会は2010年に結成され、第1回の学術集会は2011年に開催されています。早いもので、今年の学術集会は第8回目の学術集会となりました。会員の皆様方をはじめ、多くの皆様方に支えられ、学会運営が行われていることに深く感謝申し上げます。

毎年の学術集会のテーマは、大会長の長年の臨床経験や学問背景、看護観をもとに、その時の看護の課題を浮き彫りにしてくださっています。今年のメインテーマは

「看護の発想を広げ、思考力を高めよう」には、看護に対する真摯かつ熱意を持った姿勢と豊かで柔軟な思考が重要であるとのメッセージが込められていると思いました。高木智美大会長は、医療・看護が直面する課題を乗り越える策は当事者たちが発想を豊かに深い思考力をもって立ち向かうことが重要だと強い信念を持って、会長講演「看護の発想や思考力を高めるための支援を考える」を語られました。また、今年度の学術集会の特徴の一つとして、米国から近藤房恵先生がおいでくださり、基調講演として「看護の創造的なアプローチについて」をお話くださったことが挙げられます。エネルギッシュな近藤房恵先生は、国境を越えて、「看護の発想を広げ、思考力を高め、新しいことに取り組んで、創造的な看護を展開する」ことの重要性を伝えてくださいました。今後とも、本学会が皆様方にとって、身近な学会として、学術集会にも参加しやすく、学会誌への投稿も利用していただけるようこのNews Letterを活用してアピールして参ります。

◆第8回せいの看護学会学術集会を終えて 大会長 高木智美（聖隷佐倉市民病院総看護部長）



今回の学会は、「看護の発想を広げ、思考力を高めよう」をテーマに、団塊の世代が75歳以上の後期高齢者となる2025年に向けて、私たち看護職が社会のニーズに応えていくために、どのように看護の発想を広げ、思考力を高めていくかについて、参加される方々と共に考える場として企画いたしました。当日は、基調講演にサミュエル・メリット大学看護学部教授・ケースマネジメントプログラムディレクターである近藤房恵先生をお招きし、米国での実践から「看護の創造的なアプローチ」についてお話いただき、

シンポジウムは「看護の変化を考える」として企業の技術開発の立場、在宅・福祉サービス事業の立場、リハビリテーション病院の看護の立場よりそれぞれからお話を頂きました。また、口演と示説合わせて25演題の発表を頂きさまざまな視点から熱心な議論が行われ、参加者の方々は多くの刺激を受けられたと思います。参加者の方々の笑顔が多くみられた学会でした。ご講演頂きました先生方、参加者の方々の笑顔からは、多くのことを感じ、考え、明日への力として頂いたものと感じました。やはり、看護をとりまく数多くの課題に直面する今だからこそ、私たち看護師は、少し発想を広げる意識を持ち、仲間と共に考え、行動に移していくことが大切なのだと思います。

多くの課題に直面し現状は厳しいものですが、その現状を変化させるために行動する過程は苦しいものではなく、今回のご講演頂きました先生方のように仕事や看護の喜びにつながるものだと確信いたしました。今後も皆様と共に看護の発想を広げ、思考力を高めていければと思っております。最後に、せいの看護学会の益々の発展と皆様のご活躍を祈念し学会報告といたします。



◆教育講演「看護の創造的なアプローチについて」
講師：近藤房恵（サミュエルメリット大学）
座長：高木智美（聖隷佐倉市民病院）
ケースマネジメントプログラムディレクターとして多くの有益な事例をもとに継続的質改善サイクルを情熱的にご講演いただきました。



◆シンポジウム「看護の変化を考える」
長岡浩（パラマウントベッド(株)技術開発部）
松井順子（聖隷福祉事業団在宅福祉サービス部）
山崎律子（浜松市リハビリテーション病院）
司会：森本俊子（聖隷浜松病院）

「看護の変化を考える」をテーマにそれぞれの立場から発表していただきました。発表者の熱意に圧倒されながらも、立場は違っても、時代が変わっても看護は、「患者のために、利用者のために、何ができるか考え、行動する！」は普遍的であることが実感できました。

◆各会場の様子



発表は口述9題、示説16題がありました。それぞれの会場で活発に質疑応答が行われました。

【企画委員】2017年9月16日（土）アクトシティ浜松研修交流センターにて、第8回せいれい看護学会学術集会を開催いたしました。当日は、会員の皆様のみならず多数の方々が登場していただき総数158名のご参加いただきました。誠にありがとうございました。開催に当たり学会の準備から当日運営に関してご尽力頂きましたせいれい看護学会藤本栄子理事長、学会企画委員を初めとした関係者の皆様に心より御礼申し上げます。

◆総会報告 9月16日出席41名、委任状提出71名で総会が行われました。2016年度会計収支決算および監査が審議され承認されました。2018年度事業計画および予算が審議され承認されました。現在の会員数は225名、賛助会員は10団体と報告されました。

◆学会誌編集委員会 投稿をお待ちしています。

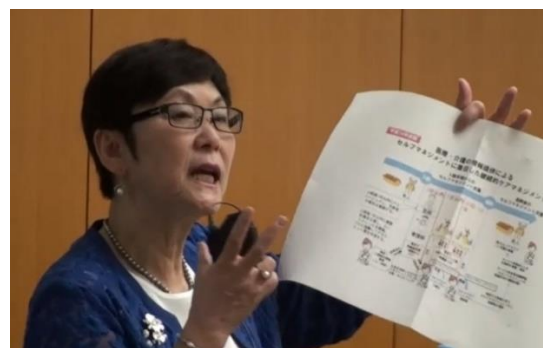
◆広報委員会：せいれい看護学会を広く知っていただくために News Letter を発行いたします。No1は学術集会を中心に作成いたしました。会員の皆様には周囲の方々に本学会を広く広報していただき会員の勧誘をよろしくをお願いします。

◆事務局から会費納入のお知らせ
年会費は5000円です。過去の納入がお済でない方は本年度分と合わせて納入をお願いします。

入会希望の方はせいれい看護学会ホームページをご参照ください。 <http://www.seirei-sons.com>

◆番外編 近藤房恵先生の講演 沖原由美子（聖隷淡路病院総看護部長）

淡路島全域の各病院、健康福祉事務所や訪問看護ステーションに広報し、大ホールがあふれでるほどの参加者となりました。ご講演は、慢性疾患のセルフマネジメントがどういうものであるのか。淡路島でワークショップを提供する場合にはどのように進めて行く必要があるのか。患者主体の教育プログラムとはどのようなことがイメージできる。アメリカで高齢者を対象に展開して成果をあげていることなどについてお話と資料を頂きました。参加者からは、学生や新人看護師にも適応できるのではないか、是非淡路島でも広めようという意見も頂きました。今後は、淡路島でのセルフマネジメントプログラムの活動をしていく種まきができましたので、しっかり育てていきたいと思っております。



◆第9回学術集会のお知らせ 2018年9月8日（土）アクトシティ浜松研修交流センター
大会長：鳥羽山睦子（聖隷福祉事業団保健事業部）
テーマ：高めよう“ワーク・エンゲイジメント”
～ポジティブシンキングでしなやかに生き活きと～
演題募集：2018年3月12日（月）～2018年5月25日（金）
応募資格：せいれい看護学会会員であること（非会員は演題応募までに入会をお願いします）

The 9th Annual Conference of Seirei Society of Nursing Science

第9回せいれい看護学会学術集会

高めよう “ワーク・エンゲイジメント”

ポジティブシンキングでしなやかに生き活きと

2018年9月8日（土） 受付：9時～／開会：9時30分
アクトシティ浜松 研修交流センター
浜松駅から徒歩約10分

学術集会長 鳥羽山睦子（社会福祉法人 聖隷福祉事業団 保健事業部）

会長講演
「ポジティブシンキングは毎日を楽しむ魔法の力」
社会福祉法人 聖隷福祉事業団 保健事業部 看護部長 鳥羽山睦子

基調講演
「健康でいきいきと働くために：バーンアウトからワーク・エンゲイジメントへ」
北里大学一般教育部人材科学教育センター教授 島津明人氏

<演題募集>
2018年3月12日（月）～5月25日（金）

<演題募集・参加申込>
第9回せいれい看護学会学術集会事務局
E-mail: ssns2018@seirei.ac.jp

<参加費>
会員・大学院生3,000円／非会員3,500円／学生500円

<せいれい看護学会サイト>
<http://www.seirei-sons.com/index.html>

<学術集会に関するお問合せ>
社会福祉法人 聖隷福祉事業団 保健事業部
聖隷健康診断センター
E-mail: hoken@ssns2018@sis.seirei.or.jp

ワーク・エンゲイジメント (work engagement) :
はたらく人の心の健康度を示す概念のひとつで、仕事に対して「熱意」(仕事に誇りややりがいを感じている)、「没頭」(仕事に夢中になり集中して取り組んでいる)、「活力」(仕事に積極的に取り組んでいる)の三つが揃って充実している心理状態を指します。
ワーク・エンゲイジメントの実現は、組織におけるメンタルヘルス対策が日進月歩で新しいテーマとして注目されています。

多くの方の参加をお待ちしております。